

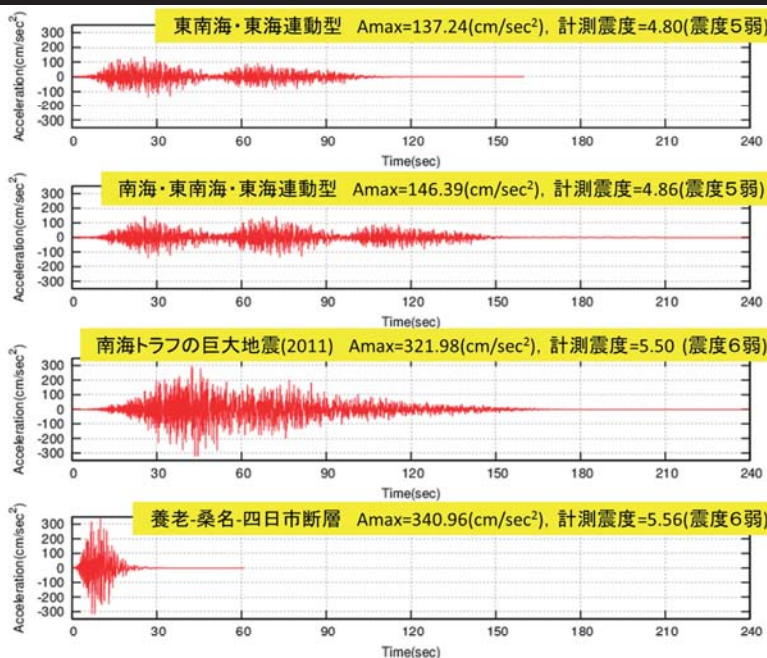
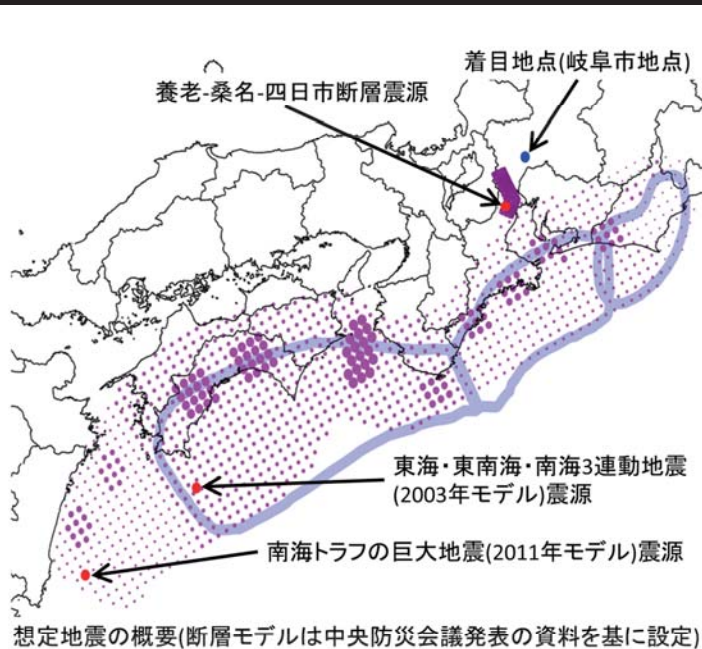
巨大地震による岐阜県の揺れは？被害は？

090

流域圏科学研究センター 助教 久世益充

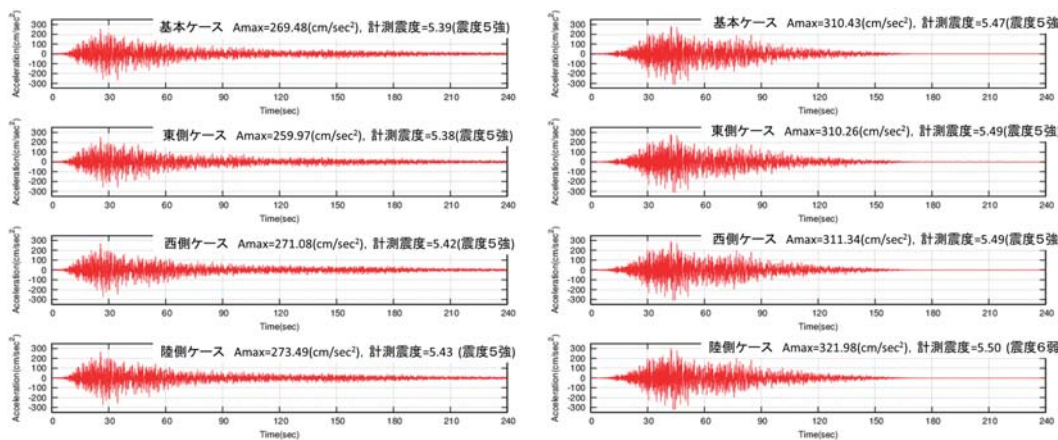
e-mail: kuse@gifu-u.ac.jp

東日本大震災や、昨年発表された南海トラフの巨大地震の震源域の見直しを契機に、自治体で地震被害想定の見直しが進められています。ここでは、内陸型、海溝型地震を想定した、岐阜市における地震動予測事例について紹介します。



内陸型、海溝型地震を想定した地震動の比較(基盤波形)

※地震動は地表付近の地盤条件によって地震動が増幅するため、地表では、計測震度で0.3~0.5程度大きくなります。



紀伊半島沖に震源を設定

日向灘に震源を設定

南海トラフの巨大地震を想定した地震動の比較(基盤波形)

アスペリティ(強い地震動エネルギーを生成する領域)位置の異なる4ケース、震源位置の異なる2ケースで基盤波形を比較しました。断層の破壊伝播やアスペリティの影響で地震波の特徴に違いが見られます。

岐阜大学地震工学研究室(杉戸真太・能島暢呂・久世益充)